様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２１９１

研究課題名（和文）日台韓における社会的孤立者に対する宗教者の伴走型支援活動に関する調査研究

研究課題名（英文）Research and Studies of support for socially isolated people in Japan, Taiwan and Korea provided and accompanied by religious people

研究代表者
宮本　要太郎（Miyamoto, Yotaro）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：１０３１２７７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：　近年、東アジア各地において、教団宗教の枠組みを超えて、精神的なつながり（スピリチュアル・ネットワーキング）をもとに「共生社会」を活性化しようとする試みが新たに生み出されてきている。本研究は、対象を日本からさらに東アジア全体に広げることで、より包括的な視点で新しい宗教的「縁」の創造の可能性を探った。
　さらに、宗教者たちが個別に取り組んでいる社会活動／社会貢献に関して、それらの活動のネットワーキング構築に積極的にかかわることで、諸活動の活性化をはかるとともに、これらの活動に研究者が主体的に連帯するアクション・リサーチとしての実験的試みにも積極的に取り組み、一定の成果を挙げた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本科研の特色は、主として宮本（宗教学）および金子（倫理学）が担当した思想的探究と、宗教社会学を専門とする白波瀬・中西・村島が担った宗教者による社会実践現場の調査・分析が、相乗効果を発揮するよう、協働で研究を進めてきた点にある。その協働の主たる場は、一般にも開かれていて宗教者も参画する「支縁のまちネットワーク」というオープンダイアローグの場でもあった。そのことが、宗教に対してできるだけ客観的・分析的なスタンスをとろうとする研究者（白波瀬・村島・中西）と、研究者であると同時に宗教者でもあるメンバー（宮本・金子・渡辺）のコラボレーションを可能にし、研究成果を社会に還元しやすくしたと言えよう。

研究成果の概要（英文）：　In recent years, there are some efforts appearing in many places in East Asian countries, to activate “inclusive society” supported by spiritual networking beyond religious organizations. This study aimed to investigate the potentialities to create new religious “bonds” (en in Japanese) in East Asia (more comprehensive than Japan only).
　We also tried to accelerate social activities on which religious people working individually, by positively taking part in the construction of a network of the activities, and provided some results from experimental attempts of action research, in which we worked together with the religious people.

研究分野：宗教学

キーワード：宗教者の伴走型支援　宗教の社会貢献　宗教的ケア　無縁社会　ライフストーリー　東アジア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

これまでの長い歴史を通じて日本社会における情緒的・精神的な絆を育んできた地縁・血縁関係が、急速な都市化や社会の流動性の高まりとともに希薄化し始めて久しいが、さらに昨今の経済情勢の悪化に伴う雇用形態の変化は、もう一つの日本的な絆であった「社縁」までをも解体に追いやろうとしている。さらに、近代合理主義と競争的資本主義によって舵取りされる社会では、自立した「強い個人」が前提とされ、弱者は「負け組」として経済的のみならず社会的にも「排除」されてしまいがちである。その結果、人間同士の確かなつながりの実感によって支えられてきた共同体が、いろいろなレベルで崩壊の危機に瀕している。

かかる事態を重くみて研究代表者は、平成 23 年度から科研費の交付を受け、「無縁社会における宗教の可能性に関する調査研究」（以下、「先行科研」）を開始した。その研究の中心的視座は、人と人とをつなぐ「ソーシャル・キャピタル」として宗教を捉えることに置かれた。伝統的に地縁・血縁を構成・維持していくうえで主導的な役割を果たしてきた宗教が、「無縁社会」という言葉に象徴される危機的状況において、その在り様を試されていると考えたからである。

２．研究の目的

現代の日本においては、これまで地域社会や家族・親族を支えてきた地縁や血縁の弱体化が深刻な問題となっている。そこには、助け合い支え合いの人間関係から疎外されて生活せざるをえない多くの人びとの苦悩があり、そしてそれらの人びとと共感・共苦することで新たな「縁」を築き、より生きやすい社会の実現に尽力する宗教者たちが存在する。本研究は、とりわけ伴走型支援活動に従事する宗教者たちの実態を調査し、現代社会において宗教（宗教者、宗教団体、宗教的価値観・倫理観、宗教文化）が果たしうる役割の可能性を、儒教的な社会観・人間観を共有する東アジア世界を視野に入れつつ、可能な限り実証的に比較研究しようとするものである。

具体的には以下の３点を中心的な目標に据える。

(1) 今日の東アジア社会において、苦の現場における宗教者たちの実践から新たな社会的関係（絆）が生み出されている実態を把握し、その背後に働いている動機や理念を明らかにする一方で、これらの活動に参画している人びとが抱えているジレンマを浮き彫りにしつつ、それらをどのようにして克服してきたか（ないし克服しようとしているか）を跡付けること。具体的には、これらの活動のうち、とりわけフェイス・トゥ・フェイスの「伴走型支援活動」に従事している宗教者たちから聞き取りを行ない、彼ら／彼女らの「ライフストーリー」を通して、彼ら／彼女らが何をしているのか（しようとしていたのか）、それは何のためなのか、何を問題と認識しているか、などについて一定の理解を得ることを目指す。

(2) 宗教者たちによる社会活動が、国家や文化の違いを超えて、あるいは宗教の違いを超えて、どの程度課題を共有しているか、そこにはいかなる問題構造が見出せるかを、調査に基づく比較研究から考察すること。その考察は、「公共宗教」をめぐる議論も視野に入れつつ、地域社会と有機的に結びついた宗教の活動のあり方への微視的・ローカルな視点と、それを規定している社会的・国家的・文化的・宗教的構造への巨視的・グローバルな視点との、双方向に向けられたものとなるはずである。

(3) 社会活動を実践している宗教者たちを個別に取り上げるだけでなく、現場の宗教者たちの間の、さらに宗教者以外の団体や地域住民などの間の、信頼関係に基づくネットワーク構築の可能性とそのネットワークにおける研究者の立ち位置を探ること。このネットワークが機能して初めて、ソーシャル・キャピタルとしての宗教は「共生」社会の実現に貢献することとなろう。その意味で、ネットワーク構築を促す本研究は、応用社会学的な地平をも視野に入れている。

３．研究の方法

本研究においては、以下のようなアプローチを併用することで、多角的に研究に取り組む。

(1) 実態調査

先行科研においては、これまで釜ヶ崎を中心にホームレスの人びとや貧困などの問題に苦しむ一人暮らしの高齢者への支援活動に従事してきた宗教者たちに対し、その活動に関して聞き取り調査を実施してきた。本研究は、その成果を活かすべく、さらに継続して聞き取りを行うとともに、まだ聞き取りを行っていない宗教の関係者や釜ヶ崎以外の地域での活動についても聞き取りを中心とした調査を実施する（全員で従事する）。

(2) ライフストーリーの分析

本研究は、方法論としてライフストーリーの聞き取りを重視する。それは、宗教者ならではの支援活動に関し、その体験の記憶の構築作業に研究者が協同的に関わることで、可能な限り内面的に探っていく試みである。個人の経験をもとにした語りを通して、自己の生活世界や社会全体の諸相や変動をホリスティックに読み解こうとする質的調査法の一つであるライフストーリーの方法を活用することで、宗教的な動機によってホームレスや被災者などへの支援活動に携わっている人びとの世界観・人間観・社会観などを探るとともに、それらの活動によって支援者たちの意識がどのように変容したかを明らかにし、信仰と社会活動の間の葛藤、変わらぬ現状に対する焦燥感、信仰の変容などを抽出・分析することが可能になる。その解明は、現代社会におけるソーシャル・キャピタルとしての宗教の可能性を論じるためにも不可欠であると考えられる。

このような理念に基づき、本研究では、聞き取りによって得られた宗教者たちのライフストーリーを分析・比較することによって、社会活動に従事している宗教者たちのそれぞれの活動がいかなる問題意識から生み出され、また活動の展開の中で信仰のいかなる変容を惹起したかを、それぞれの文脈の中で把握するとともに、宗教の現代社会における新たな可能性について考察を加える（主に宮本、金子、白波瀬が従事）。

(3) 台湾・韓国での調査と現地研究者との研究交流

先行科研のメンバーは、平成 24 年 1 月に圓光大学校ソウル事務所（韓国）で開かれた東亜宗教学術フォーラムにおいて研究報告を行い（金子、白波瀬、中西、渡辺が参加）、また平成 24 年 8 月には慈済大学（台湾・花蓮市）において学術交流研究会を実施した（宮本、金子、白波瀬、村島、中西、渡辺が参加）。その一連の学術交流を通じて、東アジア全体を覆うグローバリゼーションの流れの中で、韓国・台湾においても都市部を中心に、社会のさまざまなセーフティネットから排除されてしまった人たちが少なからず存在すること、そのなかで伝統的な縁と相互依存関係にあった宗教が、新たな「縁」として創出されている諸相が見られることを、改めて認識した。そこで、本研究のテーマに即して、台湾における宗教研究者と引き続き連絡を取り合い、共同で先住民ケア協会などを訪問して、社会的孤立の状態にある人びとへの宗教者による寄り添いケアと「縁」作りの現場を視察し、聞き取り調査を実施する。

また韓国においても、平成 24 年 1 月のフォーラム（上述）の韓国側メンバーを中心に、問題関心を共有する研究者たちと協力して、「福祉館」など、社会的孤立の状態にある人びとへの宗教者による寄り添いケアと「縁」作りの現場を視察し、聞き取り調査を実施する。

(4) 社会的孤立者に対する支援活動に従事する宗教者たちを交えての研究会開催

社会的孤立者に対する支援活動に従事している宗教者たちを招いて、活動の報告をしてもらうとともに、研究者も交え、さらに一般にも公開して、意見を交換できる場を設定する。すでに、宮本と渡辺が共同代表を務め、金子、白波瀬、中西も参画している「支縁のまちネットワーク」

では、このような宗教者たちの交流や協力を通じてのエンパワーメントに尽力してきており、支縁のまちネットワークと協働しながら、さまざまな社会活動に従事している宗教者たちを招いて活動の報告をしてもらうとともに、研究者さらに市民も交えて意見を交換できる場を設定する。合わせて、支援される人たちに対する調査と、本研究で実施する支援者への調査の相互関連についても考察を深める。

４．研究成果

(1)平成 28 年度

①実態調査、②ライフストーリーの分析、③台湾での実態調査（フィールドワーク）、④研究会を実施した。

①および②については、各自で進めながら、7 月 23 日に鍋島直樹氏（龍谷大学教授）を講師として、「臨床宗教師の理念と実践」に関する研究学習会を開催した。講師による「臨床宗教師」の理念や経緯、研修の内容などについての説明の後、スピリチュアルケアとの差異化をどのように図るのか、臨床宗教師が活躍できる場をどのように確保していくのか、などに関して質疑応答が行われた（参加者 10 名）。また、9 月 2 日・3 日には、渡辺順一が横須賀市において、横須賀在住の外国人への布教・生活支援に取り組む宗教者への聴き取り調査を行なった。

③については、宮本、金子、村島の 3 名が、9 月 1 日より 4 日まで台湾を訪れ、台北近郊の烏来（ウーライ）地区にあるキリスト教長老教会、天理教台湾伝道庁、仏教慈済基金会、キリスト教神愛教会において聴き取り調査を実施した。とりわけ、キリスト教長老教会においては、教会を中心に高齢者に対する支援の場を提供することを通して、先住民族タイヤル族コミュニティの再生が、また、キリスト教神愛教会においては、主に都市部で女性ならびに若年層の先住民族へのサポートを展開することでコミュニティの創生が、それぞれ図られている実態を確認した。

④については、2 月 18 日に「日本在住の外国人に関わる宗教者の支援活動」に関するシンポジウムを開催した。木本雅史氏（金光教横須賀教会教師）、中村瓊珠氏（台湾仏教慈済基金会関西連絡所代表）、松浦デ・ビスカルド篤子氏（カトリック大阪大司教区社会活動センターシナピス代表）より活動報告をしてもらい、中西のコメントの後、社会活動と布教活動との関連性、地域社会と支援される人々の結び付け方などについて議論した（参加者 35 名）。

(2) 平成 29 年度

①国内での実態調査（フィールドワーク）、②韓国での実態調査（フィールドワーク）、③理論的考察、④国際シンポジウムにおける情報収集ならびに研究成果の発表を実施した。

①については、白波瀬が福祉課題に向き合う寺院の調査を行なった。また、7 月には吉村智博氏（国際日本文化センター・客員准教授）を講師として、「近代都市大阪の部落と宗教」に関する研究学習会を実施し、大阪キタにおける関連施設のスタディツアーを実施した（参加者 14 名）。

②については、金子が 10 月から 11 月にかけて台北神愛教会/台北先住民ケア協会や天理教台湾伝道庁（いずれも台湾・台北）において聞き取り調査を実施した。村島も 9 月に台湾・台北のキリスト教恩友中心（ホームレス支援の宗教組織）などにおいて、また 3 月には台北の台湾慰安婦記念館や楽生院（日本統治期ハンセン病施設）などにおいて、聞き取りや資料収集を含む現地調査を行なった。さらに中西は、9 月に韓国・ソウルにおいて、大韓聖公会ソウル主座聖堂敷地内のカフェグレース（脱北女性が就労するカフェ）、ソウル特別市立再起総合支援センター（野宿者支援について聞き取り調査）、「清く香しく」根本道場吉祥寺（市民運動活動拠点の仏教寺院）、ドリームシティ宣教教会（野宿者支援専門のプロテスタント教会）などを訪れ、聞き取り調査や資料収集を実施した。

③については、各自がそれぞれに展開し、その成果は雑誌論文などに結実した。

④については、８月に北海道大学で開催された「日韓宗教研究ワークショップ」に宮本と中西が参加し、また、２月に関西大学で開催された「第２回東アジア宗教研究フォーラム」に研究協力者を含む本科研のメンバー全員が出席して、日本・韓国・台湾における宗教者による社会活動の現状などについて、情報を収集するとともに、研究成果を発表した。

(3) 平成 30 年度

①国内での実態調査（フィールドワーク）、②台湾での実態調査（フィールドワーク）、③理論的考察、④国際共同研究会における研究成果の発表ならびに情報収集を実施した。

①については、金子が西成市民館及びあいりん地区（大阪市西成区）において、白波瀬が慶蔵院（三重県伊勢市）ならびに真宗寺（島根県出雲市）において、さらに中西が在日大韓基督教会京都南部教会において、それぞれ研究課題に即した調査を実施した。

②に関しては、メンバー全員でキリスト教恩友中心の炊き出し活動や同中心本部（台湾台北市）において調査を実施したほか、社団法人玉蘭荘（台湾台北市）でも調査を行った。この他、金子は仏教慈済基金会台北志業センター外語班日本語組および台北市華厳蓮社（いずれも台湾台北市）において、白波瀬はカミルスハウス（アメリカ合衆国フロリダ州マイアミ市）において、村島は国立歴史博物館（伊能嘉矩と台湾特展）と台南三千宮（いずれも台湾台南市）、さらに風櫃温王殿、威揚宮、温王宮、澎湖天后宮、觀音亭（台湾澎湖県）において、現地調査を実施した。

③については、各自がそれぞれの課題と取組み、その成果は雑誌論文などにおいて発表された。

④に関しては、中央研究院民族学研究所（台湾台北市）の林美容教授に台湾側のカウンターパートを担ってもらい、当研究所において９月３日に日台合同研究会を開催した。林教授の基調講演および黄伯約氏（中央研究院民族学研究所・副研究員）の報告の後、科研メンバー全員が研究報告を行い、質疑応答の機会を持った。

(4) 令和元年度

①国内での実態調査（フィールドワーク）および研究会での情報交換や講演・シンポジウムにおける成果発表、②韓国での実態調査（フィールドワーク）をはじめ国際学会・国際シンポジウムでの成果発表、③成果報告書の刊行などを実施した。

①については、在日大韓基督教会京都南部教会や立正佼成会豊中教会などでフィールドワークを実施する一方、2 月 7 日に「社会的孤立者に対する宗教者の伴走型支援活動」シンポジウムを開催し、とりわけ立正佼成会豊中教会内に開設されたシェアハウスこうじゅを中心に、宗教施設をベースとした地域支援の可能性について、当事者との共同研究を行った。また、日本宗教学会や「宗教と社会」学会などで情報収集と意見交換に努めたほか、講演やシンポジウムなどにおいても研究成果の報告を行った。

②に関しては、中西が韓国のソウル市他において、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）の合同結婚式で渡韓し、後に脱会した後、諸般の事情でそのまま韓国に残留している日本人女性たちに対する聞き取り調査や、慶州ナザレ園において、敗戦後朝鮮半島に取り残された日本人女性たちへの聞き取り調査を実施した。また、金子が台湾の中国文化大学において国際招待講演を行い、白波瀬が北海道大学において、村島が韓国の翰林大学と台湾大学において、それぞれ国際学会での口頭発表を行うなど、国内外において研究成果を発表した。

③に関しては、本文 118 ページに及ぶ成果報告書を刊行し、関係各方面に寄贈した。

なお、研究期間内における研究成果は、単著２件、共著・編著９件、論文９件、学会等における口頭発表 26 件、講演７件、その他 15 件の、合計 68 件であった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 金子昭	４．巻 47
２．論文標題 天理教の布教の現状と今後の課題―教会のあり方を中心に―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 中央学術研究所紀要	６．最初と最後の頁 77-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 白波瀬達也	４．巻 14
２．論文標題 福祉領域に再参入する宗教―ホームレス支援の事例を通じた「宗教の社会貢献」の検討	５．発行年 2017年
３．雑誌名 福祉社会学研究	６．最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 白波瀬達也	４．巻 45
２．論文標題 多死社会化する寄せ場のエスノグラフィー―見寄りなき単身高齢者の暮らしと弔い	５．発行年 2017年
３．雑誌名 現代思想	６．最初と最後の頁 206-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 白波瀬達也	４．巻 10
２．論文標題 貧困地域の再開発をめぐるジレンマ―あいりん地区の事例から	５．発行年 2017年
３．雑誌名 人間福祉学研究	６．最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村島健司	4．巻 14
2．論文標題 宗教による災害復興支援とその正当性－台湾仏教による異なる二つの災害復興支援から－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 関西学院大学先端社会研究所紀要	6．最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計24件（うち招待講演　3件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 宮本要太郎
2．発表標題 臨床宗教師による「キュア」と「ケア」
3．学会等名 科研基盤研究(C)に基づく日台合同研究会（国際学会）
4．発表年 2018年

1．発表者名 宮本要太郎
2．発表標題 宗教におけるキュアとケア
3．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4．発表年 2018年

1．発表者名 金子昭
2．発表標題 無縁社会における天理教の社会活動――分教会長のライフストーリーから―
3．学会等名 科研基盤研究(C)に基づく日台合同研究会（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 白波瀬達也
２．発表標題 「移民の宗教」に関する研究動向
３．学会等名 「宗教と社会」学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 白波瀬達也
２．発表標題 現代日本の移民の宗教と多文化共生
３．学会等名 科研基盤研究(C)に基づく日台合同研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 台湾における災害復興と宗教　―ポスト帝国と「生」の保障をめぐって―
３．学会等名 韓国日本学会第97回学術大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 湾における宗教の社会的活動と宗教関連法制度
３．学会等名 科研基盤研究(C)に基づく日台合同研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 ポスト帝国の記憶と文化遺産
３．学会等名 関西学院大学シルクロード研究所研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 台湾における植民地期建造物の文化遺産化　―表象されない記憶と日常／生活―
３．学会等名 韓国翰林大学校日本学研究所 第7回HK＋月例フォーラム
４．発表年 2018年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 台湾における災害復興とポスト帝国　―宗教による復興支援を事例として―
３．学会等名 関西学院大学災害復興制度研究所：国際シンポジウム「日韓における『復興知』の共有」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 中西尋子
２．発表標題 「民族の教会」から地域社会の問題に取り組む教会へ－在日大韓基督教会における社会的に孤立した人々への支援活動－
３．学会等名 科研基盤研究(C)に基づく日台合同研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡辺順一
２．発表標題 住居喪失者支援の課題――民間シェルター事業を通じて
３．学会等名 科研基盤研究(C)に基づく日台合同研究会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宮本要太郎
２．発表標題 「ケアとしての宗教」再考
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 金子昭
２．発表標題 宗教者の社会参画をめぐる実践と研究の相互作用
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 宮本要太郎
２．発表標題 ケアの倫理と宗教
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 白波瀬達也
２．発表標題 福祉領域に再参入する宗教　社会的不利を被る人々との関わりを中心に
３．学会等名 福祉社会学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 白波瀬達也
２．発表標題 カトリック教会による移民支援の重層性　多文化共生の視点から
３．学会等名 日本社会学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 白波瀬達也
２．発表標題 Rethinking the Social Contributions of Religions: Case Study of Homeless Support Faith-Based Organizations
３．学会等名 Seoul Conference on RCCI（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 白波瀬達也
２．発表標題 地域生活支援のためのメゾソーシャルワーク　大阪あいりん地区を事例に
３．学会等名 関西社会福祉学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 台湾における災害復興と宗教―仏教系慈善団体による復興支援と被災者との関わりを中心に―
３．学会等名 関西大学人権問題研究室研究学習会
４．発表年 2016年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 宗教による災害復興支援とその正当性－台湾仏教による異なる二つの災害復興支援から－
３．学会等名 関西学院大学先端社会研究所先端研セミナー
４．発表年 2016年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 現代台湾仏教のグローバル化とローカル化―被災地における事例を中心に―
３．学会等名 宗教社会学の会定例研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 村島健司
２．発表標題 仏教の地域社会化と祭祀圏の変容
３．学会等名 日本台湾学会関西部会研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 中西尋子
２．発表標題 韓国におけるプロテスタント教会のホームレス支援
３．学会等名 第2回東アジア宗教研究フォーラム国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計12件

１．著者名 金子昭	４．発行年 2018年
２．出版社 萌書房	５．総ページ数 211
３．書名 現代における宗教批判の克服学	

１．著者名 金子昭、池澤優、藤原聖子、冨澤かな、矢野秀武、立田由紀恵、川瀬貴也、伊達聖伸、江川純一、塩尻和子、澤江史子、Jolyon Thomas、上村岳生、稲場圭信、寺戸淳子	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 256
３．書名 政治化する宗教，宗教化する政治	

１．著者名 白波瀬達也、高橋典史、星野壮、岡井宏文、荻翔一、徳田剛、永田貴聖、野上恵美、山本崇記	４．発行年 2018年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 240
３．書名 現代日本の宗教と多文化共生　ー移民と地域社会の関係性を探る	

1．著者名 宮本要太郎、小杉麻李亜、佐藤やよひ、澤井一彰、杉谷眞佐子、松浦章、酒井真道、中谷伸生、品川哲彦、井上克人、岡野彩子	4．発行年 2018年
2．出版社 小田淑子先生退職記念論文集刊行委員会	5．総ページ数 304
3．書名 小田淑子先生退職記念論文集	

1．著者名 白波瀬達也、大谷栄一、川又俊則、猪瀬優理、板井正斉、大澤広嗣、相澤秀生、藤本頼生、碧海寿広、小林奈央子、塚田穂高、藤本龍児、黒崎浩行	4．発行年 2017年
2．出版社 世界思想社	5．総ページ数 190
3．書名 基礎ゼミ宗教学	

1．著者名 白波瀬達也、盛山和夫、金明秀、佐藤哲彦、難波功士、浅野智彦、村田泰子、筒井淳也、渡邊勉、長松奈美江、新雅史、本郷正武、山北輝裕、赤枝香奈子、進藤雄三、立石裕二、関嘉寛、高原基彰、鈴木謙介	4．発行年 2017年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 368
3．書名 社会学入門	

1．著者名 白波瀬達也、白石壮一郎、椎野若菜、目黒紀夫、村尾るみこ、清水貴夫、横田祥子、福島万紀、碇陽子、丸山淳子、川端浩平、安岡健一	4．発行年 2017年
2．出版社 古今書院	5．総ページ数 216
3．書名 100万人のフィールドワーカーシリーズ第7巻・社会問題と出会う	

1．著者名 村島健司、荻野昌弘、李永祥、林梅、西村正男	4．発行年 2017年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 186
3．書名 中国雲南省少数民族から見える多元的世界―国家のはざまを生きる民	

1．著者名 白波瀬達也	4．発行年 2017年
2．出版社 中央公論新社	5．総ページ数 240
3．書名 貧困と地域――あいりん地区から見る高齢化と孤立死	

1．著者名 村島健司、関礼子、荻野昌弘、野上元、菊地夏野、福間良明、井上義和、エリック・ロバーズ、好井裕明	4．発行年 2016年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 243(171-194)
3．書名 戦争社会学：理論・大衆・表象	

1．著者名 村島健司、李永祥、劉世哲	4．発行年 2016年
2．出版社 雲南人民出版社	5．総ページ数 376(165-174)
3．書名 安危之思――災害人類学及防災減災国際学術検討会論文集	

１．著者名 中西尋子、三木英、藤田智博、沼尻正之、岡尾将秀	４．発行年 2017年
２．出版社 森話社	５．総ページ数 386(219-287)
３．書名 異教のニューカマーたち――日本における移民と宗教	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	金子　昭 (Kaneko Akira) (90214452)	天理大学・おやさと研究所・教授 (34602)	
研究分担者	白波瀬　達也 (Shirahase Tatsuya) (40612924)	桃山学院大学・社会学部・准教授 (34426)	
研究分担者	村島　健司 (Murashima Kenji) (60707511)	関西大学・人権問題研究室・委嘱研究員 (34416)	
研究協力者	渡辺　順一 (Watanabe Junichi)	支縁のまち羽曳野希望館・代表	
研究協力者	中西　尋子 (Nakanishi Hiroko)	関西大学・非常勤講師	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	渡辺　一城 (Watanabe Kazukuni)	天理大学・人間学部・教授 (34602)	